

## 大津市における主要な文化的資源について

### 目 次

延暦寺	1
日吉大社	2
坂本地区（伝統的建造物群保存地区）	3
西教寺	4
近江大津宮錦織遺跡	5
南滋賀町廃寺跡	6
穴太廃寺跡	7
崇福寺跡	8
園城寺・園城寺前身寺院跡	9
石山寺	10

えんりやくじ  
延暦寺

所在地	おおつしきかちとほんまち 大津市坂本本町	
文化財指定	世界遺産、建造物（国宝・重要文化財） 史跡（国指定） 等	
指定年月日	昭和9年3月13日指定（史跡） 昭和28年3月31日国宝指定（根本中堂） 平成6年12月17日世界遺産登録 等	
指定面積	4,968,598.8 m <sup>2</sup> （史跡）	
指定の理由	さいちよう 最澄が草庵を営んで以来現在に至るまで、仏教の聖地として常に宗教界の中心に位置する。保有する文化財は膨大な量にのぼり、日本仏教史をはじめ建築史などあらゆる分野の研究に貴重な資料を提供しており、わが国の歴史で貴重な位置を占める寺院である。	

時代	平安～
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 天台宗総本山で、山号は比叡山。</li> <li>• 寺域は4 km四方にわたり、東塔、西塔、横川の3塔16谷に分かれる。</li> <li>• 785年に比叡山に登った最澄が起居して籠山修行を始め、787年に薬師堂を創建し、比叡山寺と称したのがはじまり。平安京の鬼門を守る鎮護国家の道場として朝廷に信仰され、823年には延暦寺の寺号を与えられる。その霊力・財力・武力により仏教界最大の勢力となり、1571年にはその力を脅威とみた信長の焼き討ちにあい、ほとんどが失われたが、その後天皇家、貴族や武将など多くの信者により復興が繰り返され、宗教的権威を保ちつづけ、仏教はもとより、政治・文化の面でも日本歴史に大きな影響を与えている。</li> </ul>
大津京との かかわり	-
整備・ 活用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 山麓部にドライブウェイがあり、観光・行楽スポットとして親しまれている。</li> <li>• ドライブウェイの展望台からは、比叡の樹林地、市街地、琵琶湖が一望できる。</li> </ul>



ひよしたいしや  
日吉大社

所在地	おおつ し しかもとほんまち さかもと 大津市坂本本町、坂本五丁目	
文化財指定	建造物（国宝・重要文化財・県指定・市指定） 史跡（国指定） 等	
指定年月日	昭和48年10月9日指定（史跡） 昭和36年4月27日国宝指定（西・東本宮本殿） 等	
指定面積	327,269 m <sup>2</sup> （史跡） 等	
指定の理由	古来山王二十一社と称せられ、諸末社あわせて108社から構成されている。境内には原始信仰遺跡も散在するなど、神社の信仰史の典型ともいべき神社であり、社域である。	

時代	へいあん 平安初期～
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひよしたいしや さんのおんげん 日吉大社は「山王権現」とも称され、東・西両本宮を中心に、山王二十一社をはじめ、古くは境内社108社、境外社108社の神々が鎮座し、現在でも、約13万坪の広大な境内に、数多くの社が鎮座している。</li> <li>比叡山を神体山とする神社で、比叡山寺が開かれてからは鎮守として発展し、全国に3,800余の末社を持つ。</li> <li>ひがしほんぐう にしほんぐう やまとのくに みわ 東本宮は神代の昔より比叡山に鎮座する地主神であり、西本宮は667年に大和国三輪明神を大津京の遷都に当たり勸請し、大津京をはじめ、国家鎮護の神として祀られた。平安京に遷ると、日吉大社が都の表鬼門に当たることから、民並びに都の鬼門除け、国家の鎮護、方除け、魔除け、災難除けの祈願の社とされ、1071年後三条天皇の行幸がなされ、以来歴代の慣例となるほどとなった。</li> </ul>
大津京との かかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>西本宮は、667年に大和国三輪明神を大津京の遷都に当たり勸請し、大津京をはじめ、国家鎮護の神として祀られた。</li> </ul>
整備・ 活用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>湖国随一の紅葉の名所で、11月には「もみじまつり」が行われる。</li> <li>湖国三大祭のひとつ、1300有余年の歴史を持つ山王祭は、湖勇壮な御輿祭で、山・里・湖を舞台に、一ヶ月以上にわたって繰り広げられる。</li> </ul>




## 坂本地区（伝統的建造物群保存地区）

所在地	おおつ し さかもと 大津市坂本一丁目、四丁目、五丁目、六丁目	
文化財指定	国選定 伝統的建造物群保存地区 市史跡 穴太衆積みの石垣	
指定年月日	平成9年10月31日選定（伝建） 昭和47年7月1日指定（史跡） 昭和50、56、59年追加指定（史跡）	
指定面積	約28.7 ha	
指定の理由	さとぼう 里坊の町並みは、あのをしゅうづ 「穴太衆積み」の石垣と、その上にめぐらされた土塀・生垣の門構えで特徴づけられる。建物は奥まって建てられているため、広々とした空間と緑を演出する庭園など、町家の町並みでは味わえない奥行きのある環境で、堂・本堂・灯笼・道標・樹木・小水路などを含め豊かな歴史的景観を形成している。	

時代	江戸中期～
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>坂本は比叡山を背に、琵琶湖を前にひらけた町であり、比叡山の修学の生活を支える門前町として発達した。その後信長の山門焼き討ちにより大きな被害を被った坂本の町は、山門の復興に伴い、「里坊」制が定められた。</li> <li>天台座主が坂本の本坊滋賀院に常住し、比叡山上で修行を続けていた僧も、高齢になると山をおり里に住居を賜るようになった。山上の山坊に対し里坊と呼ばれ、坂本には里坊が立ち並ぶ町並みが形成された。</li> <li>里坊は、道路に面した門構えと、「穴太衆積み」といわれる石垣と、その上にめぐらされた土塀・生垣に囲まれ、建物は奥まったところに建てられている。主屋は八レの場である客殿とケの場である庫裏からなり、地形の微細な変化にあわせた優れた庭園を形づくっている。</li> </ul>
大津京とのかわり	-
整備・活用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統的建造物群保存制度や地区計画制度を活用して、歴史的なまちなみの保全と整備を進めることとなっている。</li> </ul>



さいきょうじ  
西教寺

所在地	おおつ しきかもと 大津市坂本五丁目	
文化財指定	建造物（重要文化財・市指定） 等	
指定年月日	明治35年7月31日重要文化財指定（客殿） 昭和61年5月24日重要文化財指定（本堂） 等	
指定面積	-	
指定の理由	もちやまごてん 桃山御殿とよばれる きゃくでん ふし み じょう 客殿は伏見城の遺構のひとつであり、内部には狩野派による人物、花鳥を描いた襖絵がある。 本堂は1739年に再建され、江戸中期の代表的な本堂建築である。	

時代	もちやま えど 桃山・江戸
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●比叡南東山麓に広がる全国に450以上の末寺をもつ天台真盛宗の総本山。</li> <li>●618年に聖徳太子が勅命により創建した。669年に、天智天皇に西教寺の勅額を賜り、寺運が隆盛し、平安時代には良源、源信が庵を結んで修行道場としたと伝えられる。その後長らく荒廃していたが、室町末期に真盛が不断念仏道場として復興。以後、戒律・念仏の道場となり現在に至るまで一日も絶えることなく念仏が唱え続けられている。</li> <li>●織田信長の比叡山焼き討ちで焼失した後、明智光秀が復興した。</li> <li>●客殿は建物全体に埋木が多く、大地震に倒れた伏見城の書院の石材を運んで1598年に建築されたと言われる。床と違棚の関係が逆で、かなり古い形式の手法を残している。</li> <li>●趣きが異なる四つの庭園や明智一族の墓など見どころが多い。</li> </ul>
大津京との かかわり	-
整備・ 活用状況	●紅葉の季節には境内全域がライトアップされ、名所として親しまれている。





おうみおつのみやしごりいせき  
**近江大津宮錦織遺跡**

所在地	おおつしにしごり 大津市錦織一丁目、にしごり 錦織二丁目	
文化財指定	史跡（国指定）	
指定年月日	昭和54年7月2日指定 昭和56年7月8日、同59年7月3日、同62年12月25日、平成11年1月14日、同14年12月19日追加指定	
指定面積	5,035.11 m <sup>2</sup>	
指定の理由	現在までににしごり錦織地区で関連した建物が集中して発見されており、宮の構造が徐々に明らかになってきている。前期難波宮から藤原京への宮都の変遷を解き明かすうえで重要な位置を占めており、全国から注目されている遺跡である。	

時代	はくほう 白鳳
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>近江大津宮は、天智6年（667年）に天智天皇によって、飛鳥の地から大津へ遷都された都である。</li> <li>遺構は、昭和49年（1974年）にしごり錦織集落の住宅密集地の一角で初めて発見された。以来、30年余りの調査によって、内裏正殿・南門・回廊などが10地点で確認され、大津宮中枢部の建物配置が復元可能となり、この宮の前に造営された前期難波宮（大阪市）の建物配置と共通する点も多く認められた。</li> <li>京域は平城京や平安京などの都城にみられる条坊が整然とした都市景観とは異なり、土地が狭いという制約などから諸施設を周辺部へ分散配置した景観が想定される。</li> </ul>
大津京との かかわり	錦織地区において大津京に関する遺構が集中して検出されており、大津京の中枢部である宮城があったとされる遺跡である。
整備・ 活用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定・保存の可能な場所から順次指定・保存する方針を立てており、公有化事業を進めている。</li> <li>指定地域には、案内標識等の設置を進めている。</li> </ul>



みなみしがちょうはいじあと  
南滋賀町麩寺跡

所在地	おおつしみなみしが 大津市南志賀一丁目・二丁目	
文化財指定	史跡（国指定）	
指定年月日	昭和32年10月11日指定	
指定面積	23,133 m <sup>2</sup>	
指定の理由	大津宮の建物が集中する錦織地区のすぐ北に位置する南志賀の地にある大津宮時代の寺院跡で、川原寺式伽藍配置をもつ。大津宮と深くかかわった遺跡と考えられ、「サソリ文瓦」と呼ばれる特殊方形軒先瓦を出土することでも著名である。	

時代	白鳳～平安
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の南滋賀集落と重なるように所在している。昭和3年と13年に大津宮をさぐる一環として発掘調査され、白鳳期創建の荘大な寺院であることが判明した。</li> <li>伽藍は中門の内側に東西両塔が、その北に金堂があり、これらは中門からでる回廊によってかこまれ、その北には講堂、食堂がならぶ配置をとっている。この伽藍配置はその後の調査により、川原寺式伽藍配置をもつ寺であることが判明し、三町四方の寺域があった可能性も指摘されている。</li> <li>瓦は白鳳期の「川原寺式」の複弁系と、規模がやや大きくデザインも異なる単弁系があり、平安時代の瓦もみられる。</li> <li>この寺院を天智天皇勅願による崇福寺跡とみる説、桓武天皇によって建立された梵釈寺とする説などがあったが、現在は南滋賀にある逸名の寺として史跡指定されている。</li> </ul>
大津京とのかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>大津宮の建物が集中する錦織地区のすぐ北に位置する南志賀の地にある大津宮時代の寺院跡で、大津宮と深くかかわった遺跡と考えられる。</li> </ul>
整備・活用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>敷地内には、遊具が整備され公園として利用されている。</li> <li>公有化を進める計画がある。</li> </ul>



あのうはいじあと  
穴太廃寺跡

所在地	おおつしあのう からさき 大津市穴太二丁目・唐崎三丁目	
文化財指定	史跡（国指定）	
指定年月日	平成9年9月11日指定	
指定面積	33,028.5 m <sup>2</sup>	
指定の理由	瓦類の出土や小規模な発掘調査などにより、早くからその存在が知られていたが、昭和59・60年度、西大津バイパス建設工事に先立ち発掘調査が実施され、主要伽藍の実態が明らかとなった。 大津京の歴史を明らかにする上で極めて重要な遺跡である。	

時代	飛鳥・白鳳～平安中期（7世紀中葉～11世紀頃）	
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>大津市域の壺笠山の小支谷から琵琶湖に向かって裾を広げる扇状地の端部に立地する寺院跡である。</li> <li>白鳳時代を中心として平安時代の中期まで存続し、途中に一度方位を変えながら全面的に伽藍が建て替えられている。創建寺院は、再建寺院建立の際に取り壊され、整地されたため、遺構はあまり遺存していないが、西に金堂、東に塔を配置してこれを回廊で囲み、塔の北側にも基壇を有する建物を配している。</li> <li>寺域を限る遺構は、東側で築地塀が、西側で溝が、南側で門に関連すると推定される礎石抜き取り穴と暗渠排水溝が見つまっている。ただし、東築地塀は、方位が創建・再建いずれの伽藍とも正しく一致せず、いずれに伴うものかは明らかでない。</li> </ul>	
大津京とのかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>法起寺式の伽藍配置をとる再建寺院は大津宮と方位をほぼ揃えており、大津宮・大津京の造営に深く関わる寺院と考えられる。一説に大津京造営に伴い方位を変更して寺院を再建したという説がある。</li> </ul>	
整備・活用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の歴史体験の場として、公園的な整備を進める計画がある。</li> </ul>	






すうふくじあと  
崇福寺跡

所在地	おおつししがさとちようこう 大津市滋賀里町甲	
文化財指定	史跡（国指定）	
指定年月日	昭和16年1月27日指定	
指定面積	216,958 m <sup>2</sup>	
指定の理由	3つの丘陵尾根上に礎石がよく残り、加えて塔心礎のうちひん納置品（国宝）などが出土しており、大津宮の歴史を解明するうえで貴重な遺跡である。	

時代	白鳳～平安
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>天智7年に天皇の勅願により建立されたとされる寺院。この寺は、志賀寺とも志賀山寺ともよばれていたようで「今昔物語」や「拾芥抄」などにも記されている。</li> <li>大津宮滅亡後も朝廷から重んじられ、奈良時代には聖武天皇も行幸し、多くの田地や物品が施入され、朝野の信仰を集め隆盛をきわめた。さらに、平安時代にも興福寺や東大寺などとならんで十大寺の一つとして重きをなした。しかし、再三の火災によって寺運はおとろえ、鎌倉時代には園城寺の管轄下におかれ、しだいに衰退していった。</li> <li>北尾根の弥勒堂と中尾根の塔・小金堂に対し、南尾根の諸堂宇が方位や礎石のつくりが異なることから、前者を崇福寺跡、後者を桓武天皇が天智天皇を追慕して建立した梵釈寺とする説が有力である。</li> </ul>
大津京とのかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>「扶桑略記」によれば、天智天皇勅願により大津宮の乾（北西）の方角に建立されたとされる寺院で、大津宮と深くかわりのある遺跡である。</li> <li>大津宮滅亡後も朝廷から重んじられ、隆盛をきわめた。</li> </ul>
整備・活用の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>東海自然歩道の上に位置し、文化財案内看板や標識・散策道などが整備され、春秋の行楽シーズンには、多くのハイカーでにぎわっている。</li> </ul>



おんじょうじ 園城寺・園城寺前身寺院跡

所在地	おおつしおんじょうじちやう 大津市園城寺町	
文化財指定	建造物（重要文化財・県指定・市指定） 史跡（国指定）名勝（国指定） 等	
指定年月日	昭和27年11月22日国宝指定（光浄院客殿、勧学院客殿） 同28年3月31日国宝指定（新羅善神堂、金堂） 等	
指定面積	-	
指定の理由	客殿は桃山時代の書院造の典型とされる建物であり、慶長年間に再建された。金堂は天台宗の仏堂の特色をよく示している。 等	

時代	な 良 ~
内容	<p>天智寺門宗の総本山で、天智・天武・持統の3帝の産湯に用いられたと伝えられる境内の霊泉に由来し、通称「三井寺」と呼ばれている。</p> <p>奈良時代に大友皇子の子、与多王によって建立されたと言われており、866年に円珍が天台別院として再興したが、円珍門徒と円仁門徒との対立により、山門（延暦寺）と寺門に分かれて抗争した結果、再三の戦火にあったが豊臣氏や徳川氏によって復興された。</p> <p>広大な境内には、安土・桃山時代の建築美を誇る数々の建築物が立ち、堂々たる威厳と風格を漂わせている。寺地は大きく3つに分かれており、北の法明院、中の金堂・唐院・日本三名鐘の1つでもある「三井の晩鐘」で知られる鐘楼、南の観音堂などがある。札所である観音堂は金堂周辺の厳粛な雰囲気とは対照的で、巡礼者で賑わい香煙が立ちこめている。また、観音堂からの琵琶湖の眺めが素晴らしい。</p>
大津京との かかわり	<p>天智天皇ゆかりの寺院である。</p> <p>現園城寺の下層には、確実に大津京時代前後に創建された前身の寺院跡が存在すると考えられている。</p>
整備・ 活用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>近江八景の一つ「三井の晩鐘」として親しまれている。</li> <li>毎年4月には桜と寺院がライトアップされ、多くの人が訪れる。</li> <li>西国三十三所観音巡礼の十四番札所。</li> </ul>



いしやまでら  
石山寺

所在地	お おつ しいしやまでら 大津市石山寺一丁目	
文化財指定	建造物（国宝・重要文化財） 等	
指定年月日	昭和26年6月9日国宝指定（多宝塔） 同27年11月22日国宝指定（本堂）	
指定面積	-	
指定の理由	現本堂は1078年に焼失した後、1096年に再建された県内最古の木造建造物であり、多宝塔は平安時代の密教の伝来とともに伝えられた新しい形式の塔で、源頼朝の建立と伝えられ、1194年の銘がある現存最古の多宝塔である。	

時代	なら 奈良～
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>石山寺は、747年に聖武天皇の勅願により、良弁が建立したと伝えられている。</li> <li>761年、保良宮の鎮護の寺として寺観が整備し、平安後期には観音霊場として名をはせ、貴族女性が参籠した。源氏物語は紫式部が石山寺に参籠して執筆したとされ、紫式部ゆかりの寺として知られる。</li> <li>境内には、寺名の由来となった天然記念物の珪灰石が各所でむきだしになっており、貴重な建築物と見事に調和している。</li> </ul>
大津京との かかわり	-
整備・ 活用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>近江八景の一つ「石山の秋月」として親しまれている。桜・梅をはじめとする四季の花の名所、紅葉の名所としても名高い。</li> <li>西国三十三所観音巡礼の十三番札所。</li> </ul>

